教科：図画工作

「地震のまちを塗ろう」

指導要綱

学習指導要領との結びつき：

目標の一つより抜粋

「見たこと、感じたこと、想像したこと、伝えたいことを絵や立体に表現したり、工作に表したりするようにする。」

⇒色が持つイメージを表わせるようになるように

準備するもの

- 色鉛筆（もしくは絵の具など）
- 塗り絵の紙

ねらい

目的

①阪神・淡路大震災時のまちの様子を知る

②阪神・淡路大震災時のまちの様子がイメージできるようになる

③色が持つイメージを表わせるようになる

④見たこと、感じたこと、想像したこと、伝えたいことを絵や立体に表現したり、工作に表したりするようにする。（小学校学習指導要領より）

⑤人と人とのつながりがあったからこそ、現在のように復興できたことを知ってもらう

手順

1．まず、阪神・淡路大震災についての説明をする

・ 阪神・淡路大震災、1995 年 1 月 17 日 5：46 に起きた。

・ 震度 7 の地震は神戸や淡路島を襲い、死者 6434 人を出した。

2．その情報や自分の知識を生かして塗ってもらう[25 分程度]

・ 日常の風景と震災の風景の違いを分かってもらう。

・ 震災のイメージを絵に表してもらう。

・ 時間が足りない場合は調節する。

・ 時計には針を書いてもらう。

3．塗ったものを貼る・見せ合う

・ お互いに感想を言い合う。他者と違う点があれば理由を聞いたりする。

・ 人がいる部分には何色を塗ったか、聞いてみる

・ 前や後ろに貼る時間がない場合は、机に置いて回ってみてもらっても良い。

・ 感想を何人か聞く、もしくは感想を紙に書いてもらう。

4．自分（先生）が塗ったものを一例として見せ、その当時の写真があれば合わせて見せる

・ 当時がどのような様子だったのかを説明する。

・ 自分（先生）が塗ったものを見せることによって、大人からの視点も示す。

５．この絵を描いた山本真巨の絵の色を見せ、当時の写真と共に、状況を説明する。また、震災当時の写真と後の写真（同封）を見せ、人の力があったからこそ、現在のように復興できたことを知ってもらう。

注意事項

- あくまでイメージとして塗ってほしく、時間がかかるようであれば、色を決めてもらうと言ったことでもいい
- 綺麗に塗れるかどうかも確かに必要であるが、震災に対してどのようなイメージを持ち、どのような色で表現するかを重視する。
- また、絵に書き足しても良い（建物にヒビ、など）

色を塗るポイント

木：燃えていないか、季節はどうか
信号機：当時は電気が通っていない
ビル：火災が起きたか、ヒビは入っていないか
人：景色との対比、この人を見てどう感じるか（暖かいか悲しいか、など）
空：震災のイメージを空にどう表すか
時計：時間を書き加えてもらう
全体の雰囲気：暗いか明るいか

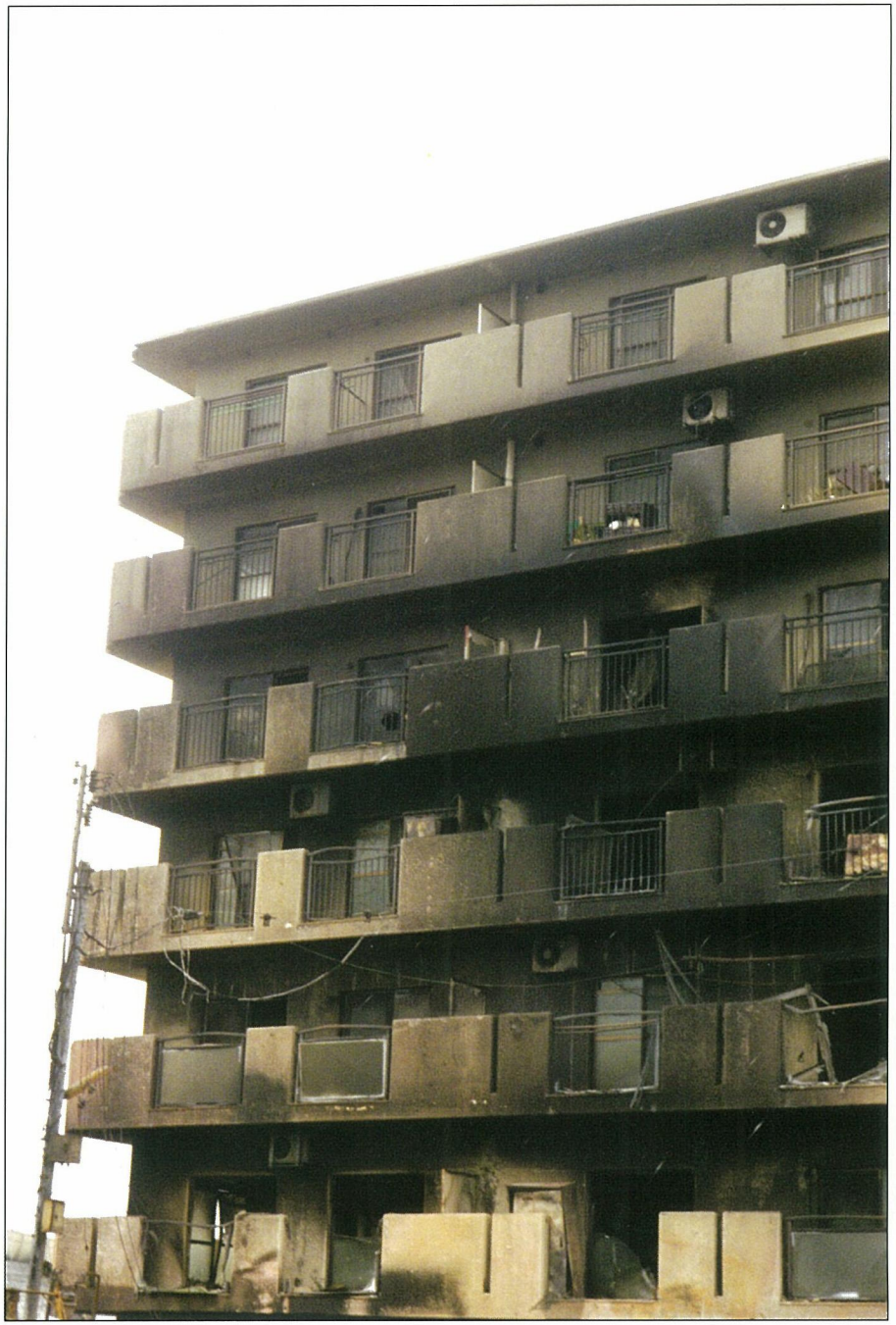
震災時の状況

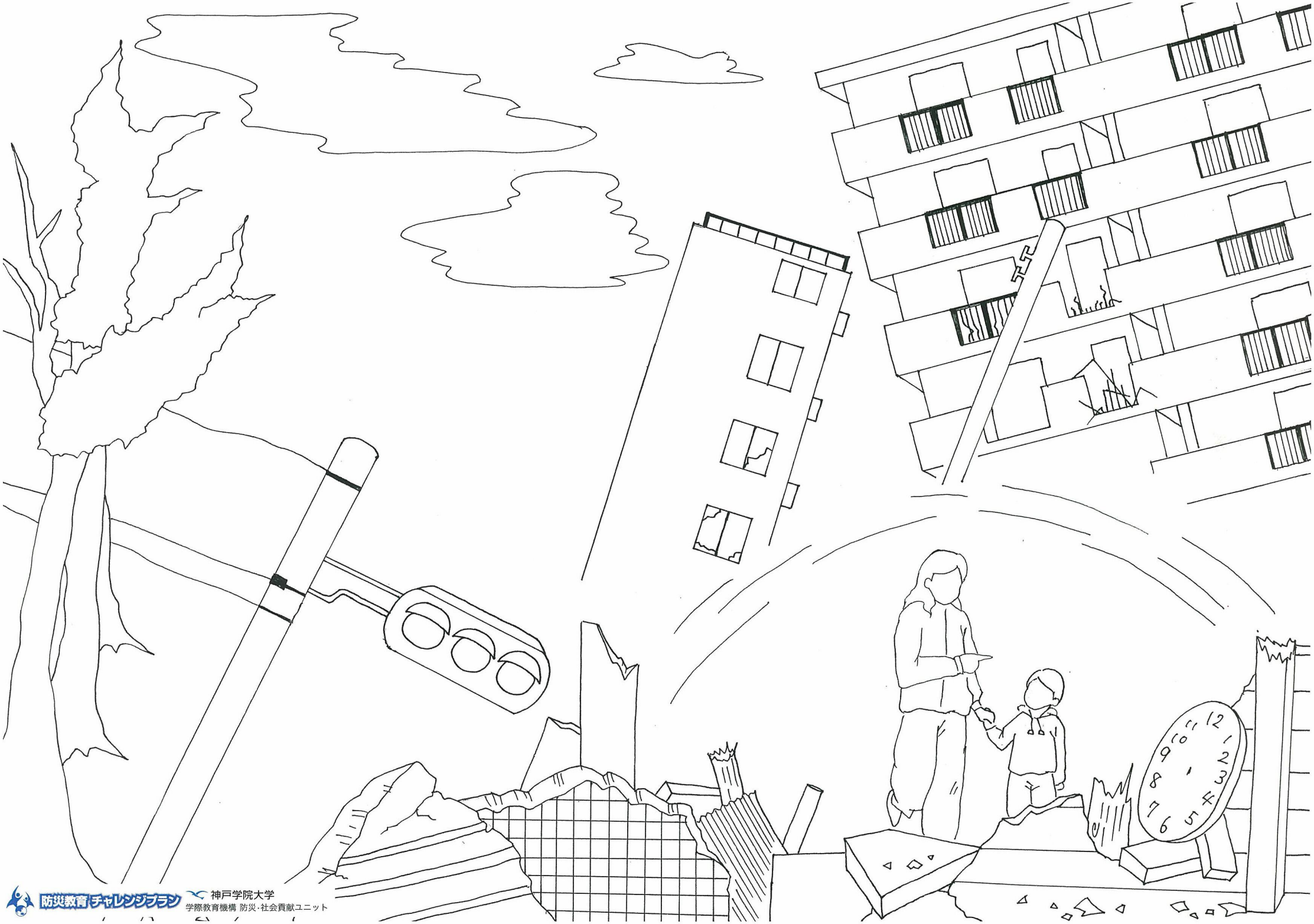
2007 年 1 月現在の復興後の状況

佐々木　ミヤ　（ソウル 1930　～　大阪　2002）

1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分の神戸長田

1995 年 1 月～3 月　油彩　カンヴァス（91cm×116cm）
人と防災未来センター所蔵





防災教育チャレンジプラン
神戸学院大学
学際教育機構 防災・社会貢献ユニット

まみ

防災教育チャレンジプラン

神戸学院大学
学際教育機構 防災・社会貢献ユニット